

デッチ上げ「蒲郡駅事件」

名古屋高裁による「控訴棄却」判決に対する抗議声明

本日10月5日、名古屋高等裁判所は、蒲郡駅事件控訴審に対し「控訴棄却」の判決を下した。われわれは、この不当判決に対して満腔の怒りを持って糾弾する。

名古屋高裁は、検察の主張を全て全面的に受け入れた推認、憶測の一審判決を支持し、再び不当判決を下した。司法の独立性、正義感全てかなぐり捨てて国家権力の意志に忠実に従ったのである。

控訴審では、鍵の保管場所や内部文書の存在すら知らない加藤誠二さんがなぜ短時間に持ち出し、コピー出来たのか。そして窃取したとする「古田助役のファイル・文書」等から加藤さんの指紋が一切検出されていないことなど、一審判決における矛盾点の解明を求めた。

しかし、「棄却」にすべき重大な根拠も控訴審では明らかにされなかった。あくまで「棄却」の結論を導くために無理矢理、理由付けしたのである。何が何でも有罪にする国家権力の意志を見事に貫徹した。もはや司法の独立性など無いにも等しい高裁の判決であった。

はじめから「控訴棄却」の結論ありきで、断じて許すことが出来ない。

今回の名古屋高裁の不当判決は、国家権力に与する司法の反動化の現実として、まさに「国策弾圧」ゆえ、必然とも言える。デッチ上げ「蒲郡駅事件」の本質は、えん罪「JR浦和電車区事件」と同様に、新自由主義に反対し反戦・平和を掲げるJR総連を弾圧することである。

政治・経済危機のもとで、支配者の意に添わない、市民団体・労働組合への弾圧が警察と司法を使い行われるのは常である。だからこそ支配者にとって、加藤誠二さんは無罪であってはならないのである。

もはや司法に正義は存在しない。

事件はJR東海会社と愛知県警によるデッチ上げ事件だ！

加藤誠二さんは無実だ！

われわれは、「控訴棄却」の不当判決に対し、煮えたぎる怒りをバネとし、さらなる連帯の強化・拡大と、デッチ上げ「蒲郡駅事件」、えん罪「JR浦和電車区事件」の最高裁判所での完全勝利を目指して闘いに決起する！！

2009年10月5日

JR東海労働組合名古屋地方本部